

まちづくりの勉強会（第2クール、第6回～第11回）開催報告

1. 目的

高山の未来のために、どのような都市(まち)づくりを目指すのか。

市民と行政とがともに考え、議論を重ね、さらには研究する場として、多様な視点や新しい価値観を大切にした『まちづくりの勉強会』を開催し、都市づくりに関する知識の向上や将来の高山を担う人材の発掘、育成などを図る。

また、『まちづくりの勉強会』の活動の中で出された有用な意見等については、都市マスタープランなど各種まちづくり計画の見直しに活かしていく。

2. 題目

高山の未来のための都市(まち)づくり

～30年後（2050年）の高山、何を目指して生きるんや～

3. 開催日等

| | | | |
|------|----------|-------------------|---------|
| 第6回 | 1月30日(水) | 高山市役所（行政委員会室） | 参加者 25名 |
| 第7回 | 2月27日(水) | 高山市役所（行政委員会室） | 参加者 19名 |
| 第8回 | 3月27日(水) | 高山市役所（201・202会議室） | 参加者 12名 |
| 第9回 | 4月24日(水) | 高山市役所（行政委員会室） | 参加者 17名 |
| 第10回 | 5月29日(水) | 高山市役所（201・202会議室） | 参加者 12名 |
| 第11回 | 6月26日(水) | 高山市役所（行政委員会室） | 参加者 17名 |

4. 参加者属性

第6回～第11回までののべ参加人数 102名

1回あたり平均人数 17名

実参加者（1回以上参加） 38名

実参加人数の内訳 10代：0名、20代：1名、30代：9名、40代：13名
50代：9名、60代：5名、70代：1名

5. 各回の進め方

第6回 グループワーク（4グループ）

前回までの4つのテーマを意識して、大切にすべき視点や地域について見い出す。

- ・継承する都市づくり
- ・情報化と都市づくり
- ・なくなるかもしれない地域（土地）への都市づくり
- ・新たな都市づくり

第7回 グループワーク（4グループ）

「ゆっくりとした時が流れている高山」というキーワードに特化して議論。

第8回 グループワーク（2グループ）

若者が住みたくなるようなまち、子育てしたくなるようなまちとは、また、若

- 者はそれを受け入れられるのか、受け入れたいと思っているのか、受け入れられるとしたらどのような工夫をすれば良いかということテーマに議論。
- 第9回 グループワーク（3グループ）
（テーマは前回と同じ）
- 第10回 グループワーク（2グループ）
若者が住みたいまちは高山で実現できるのか、実現できるとしたらどんなふうにしたら良いかということテーマに議論。
- 第11回 グループワーク（2グループ）（中間まとめ）
（テーマは前回と同じ）
前回の内容を具体的な提案として深く掘り下げる。
- | | |
|---|---------------------|
| <p>（</p> <p>グループ1：新たな要素や発想、視点（ソフト面）</p> <p>グループ2：他所にあるが、高山には無いもの（ハード面）</p> <p>）</p> | <p>討議の視点</p> |
|---|---------------------|
- | | |
|--|---------------------|
| <p>（</p> <p>グループ1：ふたつの表情を持った高山（駅西と駅東）</p> <p>グループ2：まち全体を公園に</p> <p>）</p> | <p>討議の視点</p> |
|--|---------------------|

6. 特徴的な発言、キーワード

- ふたつの表情を持った高山（駅西と駅東）
 - ・視点によって見方は異なる。
 - ・世代間によって感じ方が違う。若い人にとってどうしていくのがいいのか、逆に年配の人にはどうなっていくべきか。
 - ・高山に無いものをねだるのではなく、今ある高山のものをどう魅力的に見せていくか、見せ方を考えていく。
 - ・「高山だからこそできる」という視点を加えていく。
 - ゆったりとした時が流れる高山
 - ・お金で買えない価値、ゆっくりとした質のいいものを追求していく。
 - ・ほどよい人づきあい、高山らしい人のつながり感。
 - ・のどかな自然
 - ・郊外（農山村）はしっかりと守っていく。
 - 活発に人と情報が行き交う高山
 - ・若者が高山に戻って来られる動機づけを整備する。（県外に出る前に町の理解を深める）
 - ・子どもたちに高山の価値を伝えておく。
 - ・地域資源を若い人たちに知ってもらう。
 - ・住んでいる人が高山の魅力に気づいてもらう。
 - ・町の情報化、データベース化を進め、要望をまとめ、いろいろな提案ができるようにする。
 - ・高山の魅力について、内外に向けて情報発信していく。
 - ・外国の方、高山以外出身の方の意見は気づかされることが多い。
 - ・移住者の多い、国際的なまち → 新しい風が常に吹いている。新しい価値観。
- +
- ・ストレスなく人が移動できる交通手段、歩きやすい歩行空間の確保。

7. グループワークの様子



8. 次回以降の進め方

(特に意識したい点)

- ・若者自身の声を聴くため、10代20代の参加者を募る



第12回～ まちづくりの勉強会 第2クール終盤へ